

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通

発行 2006年11月30日

72号

NPO法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-3 1-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991



## 当事者の思いを届けよう！！

落ち葉がカラカラと足元に舞う、この季節。ほんとに久しぶりに渋谷の道玄坂を歩きました。樹がすっかり大きくなっていて、店のたたずまいも変わっていますが、横浜とはまた違った雰囲気があって懐かしく。

数十年も前からある生地屋さんの向かいに古着を扱う店があったので入ってみました。思わず自分たちのバザーを思い出して、調査？の目です。私たちなら、とっくにファイバーリサイクル用の袋行きにしそうな物まで、ちゃんと立派な値段が付いています。ただ、やっぱり”今風“なのでしょうか。

いつもの駅周辺の混雑の中で、これではいくらバリアフリーと言っても車イスは歩きづらいかも... と無粋な話。渋谷駅からNHKへ行く大通りの両側にあるレストランなどの店先に1～2枚ずつ、障害者たちの絵が展示されていました。先ほど行われたイベントによるものです。私たちのディサービスの仲間たちも何人か出展していましたが、NHKに近いモスバーガーの店頭にあった船橋君と小林君の絵は、色づかいがすばらしく、ファンタスティックで「プロの絵本作家にもひけを取らないなア」と、つい感動とお礼のカフェラテを注文してしまいました。

\* \* \*

丁度一ヶ月前の10月末、日比谷周辺に15000人の障害者を集めた怒りの抗議集会の熱気は、いくらかお上に届いたようです。障害者の利用負担軽減のための予算措置について報じられています。さらに、当事者や、私たちの思いを伝えていきましょう！

\*\*研修会 石渡和実先生を囲んで 終る \*\*

11月25日横浜ラポールで 障害者自立支援法による福祉制度の変化をどう捉えたらいいのか、私たちの活動を考える学習会を実施しました。

わかりやすい講演で、これからも障害当事者の支援を続け、地域の中に支援者を増やしていくという私たちの活動の意味や、必要性を教えてくださいました。

## 個々の違いを大切に

港北福祉保健センターサービス課

障害者支援担当係長 開地 秀明

今回、原稿依頼をいただいて、この間のことを振り返る良い機会をいただいたと思います。

私が行政の中で福祉に携わる仕事を始めて、気がつけば20年がたちました。福祉の仕事をしたという思いで勉強をし、特に障がいのある方の支援に関わりたいと思うようになったのは、私の中では自然な流れであったように感じています。

実際に、仕事をしていく中では異動がありますが、半分以上は障がいのある方の支援に関わってきました。目の前にいる障がいのある方が望まれる生活をどう支援していくか、自分の非力さを感じながらも、ご本人やご家族の声、支援されている関係者の方々の熱い思いに後押しされて、何とかやってくることができたと改めて思います。

この間、制度の大きな変更など、障がいのある方をめぐる状況は随分と変わりましたが、障がいのある方の生活は、個々の障がいやそのおかれている状況に合わせて多様であることに変わりはありません。実際に地域の中で色々な暮らし方があり、違いがあることが大事なことであると思います。

その違いを大切に、皆さんが安心して生き生き暮らしていけるよう、これからも私の立場でできることを考えていきたいと思います。



---

### グループホーム

## よつばホーム第2回運営委員会の報告

11月8日 新吉田町内会館にて平成18年度よつばホーム第2回運営委員会が開催されました。

今回は地域の方の役職交代による運営委員の交代、役員を選出がありました。副委員長の金子正雄氏が辞任され、新しく新吉田連合町内会会長に就任された手塚和夫氏が副委員長に就任されました。手塚氏はよつばホームがある西部町会会長でもあります。

また、監査の石井正雄氏が辞任され、新生町内会会長の小杉久仁男氏、第二町会会長の中山欽一氏の二人が新しく就任されました。

その他、職員より18年度事業中期報告の中で、日頃のグループホームでの生活のようすや余暇活動のようすが報告され、また、医療機関との連携の状態などについて、活発な質疑応答がありました。さらに会計より中間報告があり、承認されました。

新しい役員のみなさんへのご説明も含め、ご意見、今後の運営の仕方などいろいろと有意義な話し合いが行われました。

(職員・角井)

# ご入会、ご継続 ありがとうございます [敬称略]

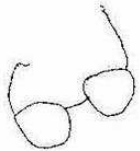
## 《賛助会員》

柘植節子 神代 孝子 吉原ふさ子

## 《賛助会員・団体》

横浜総合印刷

(18年11月30日現在)



## めがねの声

この前「支える会」の学習会で 自立支援法で変わった 福祉のお話を聞きました。

重い障害のある私には とてもいやな話を聞きました。

今は 横浜市のお金が出て 私たちは 定率負担はありませんが、他の地方の障害者たちは、負担金が払えずに サービスを利用できない人が出はじめています。

\* \* \*

元気な人は 自分で歩いたり話したり 見たり 自然に買い物をしたりできます。でも 耳が聞えない人や目が不自由な人は 外に出るときボランティアが必要ですし、身体が不自由な人は助けてもらわないと歩けないし、一人ではトイレにも行けないし 食べることも飲むことも お風呂に入ることもしない人がいます。

そんな人たちに「お金を出さないと助けてあげない」などというのは、とても不公平だと思います。たくさん助けの必要な人は それだけたくさんのお金がかかることになります。前にも書きましたが なんだか変です。

講師の先生も、「生きるために必要なことに お金を取る国は無い」と言いました。元気な人たちは こんな心配はないのに すぐに いじめたり けんかをしたり 殺したり わがままだったりします。私は いろいろな所で いろいろな障害者に会いますが、みんな一生懸命頑張っています。

\* \* \*

もう一つ 地域の人たちで 長く見守って下さる人を作りたいなと思いました。職員やヘルパーさんの他にも 小さい相談が出来たり 話し相手の友だちがいたり ちょっと 送迎をたのんだり…。 私が 前に車イスに乗って電車を通っていたとき 皆あたたかく お店の人たちや 近所の方たちが 声を掛けて下さいました。夢は そういう人たちと 普通に暮して生きたい。健常者も障害者も同じ人間だから できるようになればと思います。

大原 友子

## 今月のよつばホーム

「ハッピーバースディートゥユー♪」誕生会です。誰の…？よつばの5周年です。

11月3日の祝日の日、よつばホームで5周年のパーティーが開催されました。

ホームの中は、前日までに女性入居者を中心として作られた輪飾りで飾られ、お祝いムードいっぱい。職員は料理の盛り付けやピザの注文、予約したお寿司の受け取りなどを手分けして行い、入居者はそれを楽しそうに見守っています。



続々とテーブルに料理が並び、徐々にお祝いムードにつつまれていきます。

11時過ぎに第2よつばの入居者が到着するとさっそく開会宣言。ハッピーバースデーの歌とシャンパンの“ポン”という音とともにグラス片手に乾杯！今日はよつばホーム5歳の誕生日ということもあって、シャンパン、ビールなども用意されてます♪

テーブルの上にはお寿司やピザなど、おいしいものの香りが漂っています。

目の前のジュースが気になる人、ピザに手を伸ばしたい人、ヘルパーさんの動きが気になる人、アルコールが回り始めてテンションが上がってきた人、みんなそれぞれです。何日も前からピザを楽しみにしていた入居者の一人は、写真と同じものが届いたかどうかチェックしたり、頑張った作った飾りつけを嬉しそうにみっていたり…。みんないつも以上に食欲があり、気分も胃袋もお祝いバージョンになっています♪

会食も終わり、ゆっくり休憩しながらこの5年を振り返る(?)男性陣、なぜか童謡のカラオケ大会が始まる女性陣、あっちこっちでいろんな空気が漂うパーティでした。

大きな事故・怪我もなく、よつばホームはまる5年を迎えることが出来ました。これからも新吉田



の住人として、みなさんの協力を得ながら楽しく生活していきたいと思えます。